

# 図書館とともだち

図書館とともだち・鎌倉 おしらせ No. 221

2023・09・27

砂の如き 雲流れゆく 朝の秋

—子規—

長引いた残暑も

どうやら終焉を迎える気配？

朝夕には心地よい風が

感じられるようになってきました。

暑さ寒さも彼岸まで・・・

を少々超えています

やっと、やっと、

鎌倉に読書の秋、来る！



## ○ CONTENTS ○

PAGE

☆ 深沢図書館・中央図書館の新築 移転について市に提言書を提出	…1
☆ 図書館友の会全国連絡会 活動報告	…2
☆ 令和5年度第1回図書館協議会傍聴報告	…3
☆ ひこうせん夏の遠足	…4
☆ ととも5周年記念誌のこと	…5
☆ 福原義春さんを偲んで	…6
☆ 映画と本と図書館と 田邊恵美 / 銀幕情報	…7
☆ 「青山学院大学 校友会湘南支部第13回作品展」に参加して	…8
☆ 関東大震災と間島夫妻	
☆ 松坡先生をめぐる人々 14 藤原草丘 袴田潤一	…9
☆ 松坡文庫研究会第6回講演会のお知らせ	…10
☆ 湘南邸園文化祭ご案内/図書館からのお知らせ	
☆ ボラ協報告・協働部会報告/活動日誌	…11
☆ 事務局から	…12

## 深沢図書館・中央図書館の新築、移転について市に提言書を提出

8月30日に市長、教育長にそれぞれ面会し、要望書(添付資料①)を添えて、「これからの鎌倉の図書館にのぞむ市民の提言」と題する提言書(添付資料②)並びに参考資料(添付資料③)を提出しました。

提言書を作成したのは、要望書にあるように市の本庁舎移転に伴う深沢図書館と中央図書館の新築、移転の計画がより良いものになるよう市民の望む図書館像をまとめ、それを市の計画に反映させたいと考えたからです。要望書あるいは質問書ではなく提言書というかたちになったのは二つの図書館を新築、移転するという課題の大きさによるものです。

この課題に取り組むにあたっては、計5回の連続講座を催し、様々な学びや知見を得ることができました。その成果をまとめた提言書の構成は、公立図書館の基本的な役割、その土台の上でいま求められている図書館の機能、そして鎌倉にふさわしい図書館とは何か、それを実現するにはどのように設計されるべきかなど、多岐にわたっています。

また、現段階に示されている市の基本計画・基本構想にできるだけ噛み合うかたちで提言することが必要と考え、新庁舎の深沢図書館、学習センターがあるフロアのレイアウトについては対案を示し、現庁舎跡地利活用の基本理念となっている「ふみくら」についても、「鎌倉にふさわしい図書館」というかたちでより具体的な提言をさ



高橋洋平 新教育長に要望書を提出

させていただきました。以上のことから長文の提言書となりましたが、少しでも読みやすいよう章立てをし、小見出しも入れるなどの工夫を施しましたので、最後まで読んでいただければ幸いです。

冒頭に述べたように、8月末の議会開催前の忙しい中、市長、教育長それぞれに時間をとっていただき、「具体的な内容は定かではない段階で規模だけは決まっていることに不安と疑問を覚えている」とこと「計画に市民の意見を反映させる場をぜひ設けてほしい」という言葉を添えて提言書を手渡すことができました。文書での回答を併せてお願いしましたが、いまのところまだ回答は頂いておりません。

この件に関しては9月6日の市議会の本会議で高野洋一議員による質問がなされ、教育文化財部長が答弁しています。この答弁が市による最新の公式見解と思われまますので簡単に紹介します。「新庁舎に入る深沢図書館を今より良いものにするためには規模を拡大すべきなのに逆に小さくする計画になっているのはなぜか」という質問に対して、部長は「規模については基本設計の中で調整したい、学習センターなどとの共通スペースを閲覧室として活用することは可能である、新たなサービスの導入を含め、より充実したものになるよう検討し設計に反映させていきたい」と答弁しています。中央図書館についても「“ふみくら”という市のコンセプトに対して市民からは様々な機能とそれに応じた空間が求められるとして具体的な提案がされている、どう考えているか」という質問がなされ「現在より700㎡ほど拡大する、共用施設の活用を含め利用者のニーズに応え新たな機能の追加も考えて



市役所市長室にて松尾市長と面談

いる、引き続き市長部局と連携を図りながら基本設計に反映させていきたい」と答えています。

規模の問題については共用スペースの活用という、これまでのパブリックコメントや出前講座での回答の範囲にとどまっています。新たなサービスも考えているとしていますが、具体的に明らかではありません。文書回答には、もう少し踏み込んだ内容を期待したいと思います。

私たちが近隣の自治体のモデルになるような図書館を実地見学し、市の基本計画や基本設計に、より具体的な提言ができるよう努力していきたいと考えています。

(和田)

## 図書館友の会全国連絡会 活動報告 ～文部科学省から回答書が届きました～

会報前号(No.220)では、5月31日に文部科学省宛に提出した質問書内容をお知らせしました。7月26日、その回答書が届きましたのでご報告します(添付資料④)。前号に添付した質問書とともにご確認下さい。

【質問項目1への回答】第5次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の観点から2件の好事例が示されています。文科省HPでは、その他様々な具体例が示され参考になります。

[図書館実践事例集 ～人・まち・社会を育む情報拠点を目指して～:文部科学省 \(mext.go.jp\)](#)

ちなみに、同ページには鎌倉市図書館による「90年前の関東大震災」と鎌倉」と題した取組が掲載されています。[鎌倉市中央図書館 \(mext.go.jp\)](#) さすが、鎌倉の図書館！

【質問項目2への回答】読むと、文科省が読書バリアフリー法に基づく計画の策定推進に力をいれていることがわかります。しかし鎌倉市ではまだ策定されていません。迅速な取組みを願います。

[令和4年度視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画の策定状況一覧 \(mext.go.jp\)](#)

【質問項目3への回答】色々な観点がありますが、1、2の取組を拡充・加速させるためにも、文科省には、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の見直しを早急に進めていく責任があると考えます。図書館友の会全国連絡会は引き続き国へ声を届けていきます。

(阿曾)

## 令和5年度第1回図書館協議会傍聴報告

8月1日(月)本年度第1回目となる図書館協議会を傍聴しました。

協議会委員5名(内、鈴木雄子氏(学校教育関係七里ヶ浜小学校々長)欠席)

傍聴者 市議員3名、市民3名(内、図書館とともだち・鎌倉会員2名)計6名

議事

- (1) 図書館協議会委員の交代について
- (2) 報告事項
  - ア 定例市議会における図書館関連質問について
  - イ 令和5年度重点事業について
  - ウ 写真集の出版及び電子書籍について
  - エ 第4次鎌倉市図書館サービス計画の進捗状況及び事業の評価について
  - オ 第4次鎌倉市子ども読書活動推進計画の進捗状況及び事業の評価について
  - カ 鎌倉市図書館の設置及び管理に関する条例施行規則の改正について
  - キ 図書館の施設整備について
  - ク 図書館のシステム更新について
  - ケ 統計速報版について
  - コ 市史編纂事業について

.....

報告事項の項目は多く挙げられ質疑応答がなされたが、討議事項の全くなかったことは残念でした。今、本庁舎移転に伴い新庁舎が複合施設となりそこに深沢図書館が入り面積は縮小化、市庁舎現在地利活用については中央図書館を中心とした設計で面積はやや広くなるような計画ではあるが、各図書館の本質を熟考している構想とはとても思えません。また今年度正規職員が2名採用されましたが来年度の募集はしないとのこと。現司書職は忙しい日常業務をこなしながら新たな課題の深沢図書館、中央図書館の構想や、市史編さん事業などの業務が加わり多忙を極めています。図書館業務において最も重要な人材が確保されないことは司書職をないがしろにしているのではと思ってしまう。年間3、4回しか開かれない図書館協議会を有効に活用してほしいです。

今回の傍聴申し込みにあたり、私自身の問題があり随分迷いました。高齢化問題の一つで聴力が低下していて、離れた所での会話、小さな声、語尾が不明瞭、俯き加減で話す声、口の中でモゴモゴ話す、背後で聞く会話など、声は聞こえるのですが言葉として聞き取り難いのです。極端な言い方をすれば音として聞こえ言葉として聞きとれないのです(ということは会話としても成立しない)。

今回の傍聴申し込み時に館長にその旨を伝えました。館長から協議会の始まる前に委員や図書館員の皆様にそのことをご理解していただけるようにお話があったことと思います。当日は傍聴席として最も聞きやすい前列で委員と図書館員の方がL字型に位置した角席に座ることができ、期待を持って皆様の声に耳を傾けました。委員、図書館員の方々は努力をして下さったようですが、やはり聞き取れない不明瞭な部分があり内容をきちんと把握することが出来なかったことが残念でした。

今後私のような難聴者も傍聴されることでしょうか。個人により難聴の程度は異なり個々への対応は難しいかもしれませんが、先ずは一般的なマイクを使用して頂けたらと思います。勿論私自身の補聴器使用も検討しています。

(阿部)

8月の猛暑の中、おはなしひこうせんメンバー6名で、県立神奈川近代文学館で開催された「「おまけ」と「ふろく」展」と、メンバーのひとりである荒井さんが主宰される家庭文庫を訪問しました。

## ひこうせん夏の遠足

8月10日、神奈川近代文学館とオレンジ&レモン文庫の展示を見学した。

「「おまけ」と「ふろく」展 一子どもの夢の小宇宙」は、お菓子のおまけと雑誌のふろくを時系列に沿って展示したもの。世代によって興味の対象は違うと思うが、私にとってはグリコのおまけや学研の「科学」と「学習」のふろくが懐かしさを覚えるもので、童心にかえて楽しんだ。また、子どもの本に携わる者として、カバヤキャラメルの数カードと引き換えに貰えたという「カバヤ児童文庫」(1952年～54年 名作文学をリライトして収録した通称「カバヤ文庫」)は、絵本・児童文学の歴史を学ぶ中で存在は知っていたものの実物を見るのは初めてで、興味深かった。



「戦争と平和の本」を展示

ランチを挟んで、午後は文庫の「戦争と平和の本」展示に向かった。こちらでは文庫の主宰者としてメンバーをお迎えした。今回のテーマは「核兵器と原発」。ウクライナ戦争においてイギリスがウクライナに劣化ウラン弾を供与するというニュースに触れ、核兵器の脅威を改めて知っていただきたいという思いからこのテーマを選んだ。展示は絵本・児童文学・一般書・紙芝居(紙芝居文化推進協議会より借用)・DVD170点ほど。それらを「原爆開発」「ヒロシマ・ナガサキ原爆投下(1945年8月6日・9日)」「水爆実験、マーシャル諸島・第五福竜丸被爆(1954年3月1日)」「核の平和利用? スリーマイル島原発事故(1979年

3月28日)・チェルノブイリ原発事故(1986年4月25日)」「劣化ウラン弾」「日本の原発事故 東海村臨界事故(1999年9月30日)・福島第一原発事故(2011年3月11日)」「放射線被ばくの実態と原子カムラ、御用学者と市民科学者」「核兵器禁止条約」とNGO「ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)」の働き」の8つのコーナーに並べ、簡単な解説を書き添えた。

展示内容について説明した後、それぞれの興味・関心に従って、展示したものを自由に手に取っていただいた。最後にメンバーの一人が紙芝居「原爆の子さだ子の願い」を読んでもらった。

展示によって特に知っていただきたいことが幾つかある。原爆製造を最初に成功させたのはアメリカだが、同時期に旧ソ連・ドイツ・日本の科学者たちも開発を試みていた。科学者は原爆が投下され、無辜の民が呻き苦しむずっと前から結果が大規模な破壊と殺戮となることを知っていたのだ。劣化ウラン弾は過去に湾岸戦争などで使用され、敵兵だけでなく使用した側の兵士も被曝し健康被害や遺伝的影響が出ている。ウクライナ戦争で使用されれば、ウクライナ兵も被曝しウクライナの地が放射能に汚染されるに違いない。放射線被ばくの実態は原子カムラの論理によって巧みに隠蔽されているが、一方で誠実に実態を世に知らしめようと努力する市民科学者も存在する。また原発稼働と核兵器製造は表裏一体で、核の平和利用だけで終わることなどあり得ない。原発再稼働と軍事費倍増は何のためか? 推して知るべし。

(荒井かおり)



## いま改めて「平和な明日を紡ぐ」を考える ― TOTOMO5 周年記念誌のこと

TOTOMO は本年、発足 25 周年をむかえ、記念事業として連続講座を開催しましたが、これまでも節目節目に記念事業を行っています。遡れば、2018 年には図書館友の会としてのあゆみを振り返り、併せて TOTOMO を応援してくださる皆様からのご寄稿文も収めた 20 周年記念誌『ととも』を編集・発行。15 周年には、作家の阿刀田高さんと先日なくなられた福原義春さんをゲストにお迎えして講演会とパネルディスカッション(司会：末吉哲郎さん)、富岡幸一郎鎌倉文学館長(当時)と作家・藤沢周さんの対談、「鎌倉文士とまちづくり」展などを行いました。10 周年事業は特に行われませんでした。『鎌倉図書館百年史』や『鎌倉市図書館 100 年のあゆみ』の編纂協力に力を注ぎました。

そして、それら記念事業の第 1 回目となったのが、2003 年(5 周年)です。

TOTOMO が図書館の応援団として歩き始めて 5 年目。私たちは、「平和とは何か」をテーマに企画を進めました。図書館を楽しむためには平和な社会であってほしいですし、平和とは何かを考えると、図書館はその材料を提供してくれる心強い場所であると考えているからです。

「わたしたちの平和な明日を紡ぐために」と題し、TOTOMO は原子力の恐ろしさを訴えました。

①チェルノブイリ原子力発電所(旧ソ連・現ウクライナ共和国)事故で被災した小さな村を取材して撮影されたドキュメンタリー映画(本橋成一監督)「アレクセイと泉」自主上映会(因みに、音楽は今年亡くなられた坂本龍一さんでした)。②世界のヒバクシャ写真展③本橋成一監督のギャラリートーク④林京子さんを囲む会⑤橋爪文さん講演会

以上 5 つの企画事業です。

林京子さんと橋爪文さんには第二次世界大戦における被爆体験を語っていただきました。



『わたしたちの平和な明日を紡ぐために 図書館とともだち・鎌倉 5 周年事業の足跡』より

武器として使われた広島と長崎での原子爆弾と、原子力発電所の事故による被害。同じヒバクでも全く種類の異なるものですが、その恐ろしさの根底は変わりません。私たちはこの現実をどう捉えるべきかを深く考えさせてくれる企画でした。

開催期間中、各会場には多くの方が足を運んでくださいました。しかし、チェルノブイリ原発事故から 36 年で、今度は偶発的な事故ではなく人為的な事件として原発が脅威に晒されるとは、2003 年の当時誰が想像したでしょう。否、使える武器として原発を捉え虎視眈々と狙っていたところがその頃既にあったのでしょうか。

5 周年記念事業の記録『わたしたちの平和な明日を紡ぐために 図書館とともだち・鎌倉 5 周年事業の足跡』は、鎌倉市の図書館に所蔵されており、閲覧できます。図書館を訪れる折には、ぜひ

お手にとってご覧いただければと思います。(齊木)



写真展会場風景

## 福原義春さんを偲んで

福原義春さんが8月30日に逝去されました。

初めてお目にかかったのは2013年の春。当会が発足して15年目の年、記念事業を実施するにあたり銀座までご講演のお願いにあがった時のことです。大変な緊張の中でそのとき福原さんに申し上げたのは、当会の設立趣旨と日頃の活動、そしてご講演をお願いするに至った私たちの思いでした。

街の公共図書館は無料の貸本屋ではなく、古今東西の本や資料を的確に収集・保存・提供する大切な教育文化機関であると考え、その発展のためにNPO活動をはじめたこと。様々な催しを通して仲間は増えてきているものの力不足のためその重要性が広く共有されていないこと。公共図書館が持つこの存在意義をさらに多くの方と共感したい、そのためにお力をお借りしたい、との気持ちを精一杯お伝えしました。有難いことに、その場で、講演のみならず、阿刀田高さん、末吉哲郎さんとのパネルディスカッションについてもご快諾を得ることができました。

テーマを「文化をつむぐ 図書館でつながる」に決めて準備を進めましたが、直後より新聞のコピーや冊子などが次々と福原さんから送られてきました。万年筆で書かれたコメントや、いくつもの付箋が添えられています。メンバーで読みあい勉強に励みました。尚一層の元気が沸き士気があがりました。イベント当日だけでなく、そこに至る過程にこそ事業を成功させる大切な鍵があり、得がたい醍醐味があるのだ、との気づきは福原さんから教えていただいた大きな学びの一つです。



図書館とともにたち・鎌倉15周年記念事業より  
「文化をつむぐ 図書館でつながる」  
右から福原義春氏、阿刀田高氏、司会の末吉哲郎氏

講師のお話やパネルディスカッションはわかりやすく、たのしく、奥深く、幅広く、そして心強いものでした。図書館や美術館や博物館等、教育文化機関への指定管理者制度導入に関する疑問やその理由も、やわらかく軽妙な語り口ながら直截に発言されました。当時メディアを賑わしていた武雄市ツタヤ図書館の在り様についても批判的発言が相次ぎました。先の戦争末期、貴重書を守るために尽力した人々を追ったドキュメンタリー映画「疎開した40万冊の図書」のご紹介は、現在もやむことのない戦争や、歴史文化遺産への冒流行為に対する強い警鐘だったと改めてかみしめます。

また、長時間のイベントでお疲れだったにもかかわらず、小さな喫茶店でのお茶もご一緒下さいました。当日外回りを担当してほとんど会場入りできなかったスタッフをねぎらって下さるためでした。

その後も講演録の校正をお願いしたり、会報をお送りするなど長い間見守っていただきました。図書館振興基金へのご支援や神奈川県立近代美術館解体見直しへのご賛同など、折々に頂いたお力添えは、かけがえのない力となり勇気となりました。

大好きな書の一つに蘭溪道隆墨蹟の「風蘭」偈があります。「深い谷にある蘭は、人知れずその香りが春風によって伝わるものである」との意味ですが、鑑賞の度に蘭がお好きだった福原さんの教えやご温情を思います。人の身体には限りがありますが、本や図書館に向かう私心のない探求は時空を超えて自在を得、近しく交錯することもあるのではないのでしょうか。ご著書やメディアの中で、図書館や町の本屋さんで、あるいは映画館や美術館の片隅で…。いつかどこかでまた福原さんにお目にかかれようかと願いつつ、ご冥福をお祈り申し上げます。

(阿曾)



第43回

## 映画と本と図書館と

### 『土を喰らう十二ヵ月』

(『土を喰らう十二ヵ月』製作委員会 制作／監督・脚本：中江裕司)  
日活 配給 (2022年日本)

「かまくら銀幕上映会」ナビゲーター 田邊恵美

文筆家が主役の映画は、そこそこある。この作品の原作は水上勉が女性月刊誌ミセスに連載した料理エッセイを合冊して出版されたもの。ストーリーがある訳ではなく、映画の為に創作ドラマが作られたが、実に無理なく出来ている。

写真もそうだが、web上の動画で見る水上勉はさながら俳優のような整った顔立ちに人生の年輪を重ねた美しさがある。そして劇中、役名も『ツトム』という作家役を演じるのがジュリーこと沢田研二。ビジュアル系シンガーのはしりだった美男も75歳。今も歌手として俳優として、昔とは変わった姿で堂々と活躍。変わらぬ若さが褒めそやされる事が多い今日この頃だが、美しいエイジングはステーキ肉だけでなく人間にもあるぞと言っているかのよう。

茶を点てるツトムの姿に見入る年下の恋人の編集者（松たか子演じる）が思わず「いい男ねえ」…「せやろ。」ここでこれがさらりと言えて無理がないのはやはり今の沢田研二。

山の中でひとりで土を耕し料理をし、万年筆を持って原稿用紙に向かう。まさにイメージする通りの晴耕雨筆の作家の暮らしぶりが描かれるが、実は水上本人、晩年に心筋梗塞で倒れた後は、万年筆で原稿用紙という執筆スタイルが体力的に負担となり、Macintoshを導入。片目を失明した後は音声入力ソフトで小説を執筆したとのこと。

生きて吸収した全てを使って文を紡ぐ職人、これからも間違いなく様々なスタイルの作家を描く映画が出来るでしょう。楽しみです。



かまくら銀幕上映会のお知らせ (主催：ドリーム・アーツ (03-5969-8081) 於：鎌倉芸術館小ホール

9/28 (木) 『オットーという男』 10/12 (木) 『ウィ、シェフ!』

10/26 (木) 『銀河鉄道の父』 11/9 (木) 『小さき麦の花』

◎前売り券: 1000円 (当日券: 1300円) \* 受付で「田邊さんから聞いた」と仰っていただければ前売り料金でご覧いただけます。

◎上映時間①11:00~ ②14:00~ ☆上映スケジュールの確認は、鎌倉芸術館 (0467-48-5500) へお問い合わせください

## 「青山学院大学 校友会湘南支部 第13回作品展」に参加して

2023年7月20日から24日までの5日間、鎌倉芸術館ギャラリー2において「青山学院大学 校友会湘南支部第13回作品展」が開催され、「間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会」(以下旌徳の会)は参加の機会を得、パネルの展示を行いました。

この作品展は、青山学院OBの方々の絵画・書・木彫・写真・ウッドアート・ステンドグラス・鎌倉彫などの力作を発表する機会です。コロナで3年間お休み後、久しぶりに行われました。校友会湘南支部に属する私は、鎌倉に多大な貢献をされた間島弟彦・愛子夫妻の事績を鎌倉市民および青山学院OBの方々に周知したいとの思いから、作品展への参加をお願いしたところ、OBの皆様は快く了承していただきました。また、旌徳の会メンバーの賛意も得て、展示の準備を進めました。

展示は、今まで「ファンタスティック☆ライブラリー」「NPO センターのフェスティバル」等で紹介したものを見直し「①あらためて間島弟彦・間島愛子夫妻に学ぶ」「②間島夫妻の事跡を辿る(地図)」の2枚のパネルおよび「間島愛子さんの歌」「復旧した旧図書館の写真」などを展示いたしました。

作品展には、連日の猛暑にもかかわらず鎌倉市民や青山学院OBなど1日平均50名、延べ250名余の方に訪れていただきました。

我々の展示場所は、順路の最後に位置していたため帰り際に足を止めていただき、ゆっくりと御覧いただけました。多くの方に説明をさせていただきましたが、鎌倉市民の間島さん認知度は低く、間島さんの功績に感心する方ばかりでした。青学OBの方々は、間島さんの名前は知っているのですが、実際の功績については初めて知った方がほとんどでした。また、出展された方々からの評判もよく、充実した5日間でした。今後も間島夫妻に関する研鑽に励み機会あるごとに周知活動を続けてまいりたいと思います。(旌徳の会 平塚 優)

## 関東大震災と間島夫妻

大正12年9月1日の関東大震災は鎌倉にも甚大な被害をもたらしました。地震が起きた時、同年6月にひとりごの道彦を病で失い、失意のうちに体調を崩していた間島弟彦氏は職を辞し、愛子夫人とともに静養のため軽井沢に滞在していました。鎌倉海岸通りの本邸は半潰、葛西ヶ谷にあった白水荘と呼ばれた山荘は避難の人びとに使用されていたため夫妻の帰鎌は12月初めになりました。弟彦氏は震災で倒潰した英勝寺の山門部材を買取り、2年の歳月をかけて白水荘内に復元し、その保存に努めました。その後、平成13年に山門は英勝寺に戻され、10年後に改めて境内に復興再建され現在に至ります。

震災直後の鎌倉の様子は、日本画家・藤原草丘の手になる「鎌倉大震災図巻」(鎌倉国宝館蔵)からも見てとれますが、草丘は「白水荘之図」(『小伝 間島弟彦』口絵)も描いており、弟彦氏晩年の頃の白水荘の佇まいを辿ることができます。弟彦氏逝去後も、愛子夫人は弟彦氏名義で国宝館や旧図書館の建築費など鎌倉町に篤志を寄せています。夫妻の数々のご遺徳がどうか末永く鎌倉の人びとに語り継がれますよう、切に願っています。

やすらかにあるがわびしも修羅の巷生死の海のうめきをおもふに

(東京大震災の報を聞きて) 弟彦(間島弟彦歌集より)

ゆきし子のうつしゑいだき病む夫の身ぢかにぞをるけうときおおなるに

(九月一日大地震ありし時) 愛子(間島愛歌集より)

(阿曾)

## 松坡先生をめぐる人々 14 藤原草丘

松坡文庫研究会 代表 袴田潤一

今年は関東大震災から100年。多くの博物館・美術館で震災・防災に関する展覧が開かれています。鎌倉でも国宝館で7月下旬から9月初旬にかけて「大正地震100年・元禄地震320年 2つの関東大震災と鎌倉」と題された展覧会が行われました。足を運ばれた方も多かったのではないのでしょうか。被災した仏像や絵画、修理関係の史料と並んで、震災の被害の様子を詳細に描いた「鎌倉大震災図巻」が展覧に付されていました。「図巻」は全6巻、縦およそ41cm、全長は30mにも及び、鎌倉町の各所をパノラマ風に描き、被害の様子、逃げ惑う人々、助け合う姿を克明に表現しています。描いたのは鎌倉に長く住み、自ら長谷で罹災した日本画（南画）家の藤原草丘（?～1930）。序文は田辺松坡、跋文は阪正臣が寄せています。

下野国（現栃木県）に生まれた藤原草丘は足利市蓮岱寺山の田崎草雲（1815～1898）の画塾で学び、明治40年前後から鎌倉に住んだようです。松坡先生の「序」には「毅然として独り背て時流を趁わざるを守る。故に名は未だ甚しくは顕れず。」（原漢文 以下「序」からの引用については同様）とあります。代表作としては、大岩毘沙門天（足利市大岩町）本堂の雲竜図（額絵 明治26年）、善徳寺（足利市大町）の天上板絵126枚（市指定重要文化財 明治28年）などがあります。足利尊氏を開基とする古刹の本堂の天井板絵を任されているほどですから地元では知られた画家だったのでしょう。田崎草雲は日頃から門人に対して、描くに当たって奇巧を弄んではならない、人々を教化し、徳に導くことに役立つことを目指すよう説いていたそうです。藤原草丘は「鎌倉大震災図巻」をそうした意図を以て描いたに違いありません。松坡先生は「序」の中で草丘の「図巻」は田崎草雲の遺した教えを受け継いで制作されたものであると書いています。

長谷で罹災した草丘は「危険を冒して隣人を救い、家人と力を合わせて仮舎を建て、或いは共同し警戒に当たった。日夜勤労の暇には筆紙を携えて東奔西走し、自ら見たものを具に写しました。被災地を歩き回り絵などを描いていることについて、「(草丘が)遊び戯れているとして、妬み憎む気持ちで眺め、口汚く罵る者が甚だしかった」そうです。友人である草丘が心血を注いで震災の4年後に完成した「図巻」を観た松坡先生は「欣然を以て」序文を認めたのです。

この連載で鎌倉の文化人サロンとでもいうべき「鎌山」のことはについては屢々触れました。その同人16名には大橋康邦（国宝館の展覧会では康邦の「大震災写生図」も展示されていました）らの画家グループがいます。草丘と松



『倚翠庵吟草』表紙（題簽は松坡）と草丘の画（個人蔵）

坡先生との交友は画家たちとの交友の中で生まれたに違いありません。草丘はまた歌をよくし、「図巻」に跋文を寄せている阪正臣とも親しく、海上寿子の亀廬舎の歌集『可め乃ひとむ連』（1936）には草丘の歌が十首ほど収められています。歌人グループのチャンネルもあったのです。

鎌山同人で大巧寺住職だった片野晃陽に『倚翠庵吟草』（1929）という自筆詩稿集があります。大正10（1921）年から昭和3（1928）年までの晃陽の詩稿（280首）に松坡先生が朱筆を入れたもので、松坡先生の序、藤原草丘の画が添えられています。晃陽・松坡・草丘の親しい交友を如実に示す大変貴重な資料なのです。

## 松坡文庫研究会 第6回講演会のお知らせ

当会報で好評連載中の「松坡先生をめぐる人々」の執筆者である袴田潤一氏（松坡文庫研究会代表）による講演会を開催します。

同研究会は、鎌倉市中央図書館のコレクションである「松坡文庫」（田辺新之助旧蔵書）や田辺新之助（1862～1944 号は松坡）その人についての調査・研究を目的に2018年に設立されました。

6回目となるこの度の講演会では、明治初めにおきたマリア・ルース号事件の解決に神奈川県令として優れた政治力を発揮した大江卓（1847～1921 号は揚鶴）と田辺新之助が山陰へ旅し、その後まとめた連作漢詩集などを手がかりに旅の跡を巡ります。旅程を再現し、名所旧跡を詠じた漢詩を味わい、二人の厚い交遊に思いを寄せます。

### 『山陰游草 松坡、揚鶴大江卓との旅』

日時：2023年10月7日（土） 14:00～16:00

会場：鎌倉市中央図書館 3階 多目的室

申込：鎌倉市中央図書館へ 電子メールあるいは電話でお申し込みください。

電子メール：件名に「講演会申込」本文に氏名・フリガナ・電話番号をご記入下さい。

[chulib@city.kamakura.kanagawa.jp](mailto:chulib@city.kamakura.kanagawa.jp)

電話：0467-25-2611（鎌倉市中央図書館）

主催：松坡文庫研究会

共催：鎌倉市中央図書館

後援：図書館とともだち・鎌倉 逗子開成中学校・高等学校

## 湘南邸園文化祭のご案内

相模湾沿岸地域の邸宅・庭園、歴史的建造物を会場として文化発信をする湘南邸園文化祭が、9月9日に始まりました。今年で18回目となり、各地のNPO等が多彩なイベントを行います。鎌倉でも、旧山本条太郎邸の公開や、パヴロバ・バレエスクールにまつわる催しなどが行われます。

当会はイベント参加はしていませんが、ガイドブック巻末の邸園トピックスに「旧鎌倉図書館修復なる」と題し、今年4月からこどもの家として開所した旧鎌倉図書館の成り立ち、歴史的な意味、保存活動の経緯を寄稿しています。ガイドブックは市内各図書館等で配布しています。同文化祭HPでもご覧いただけます。<http://shonan-teien-festival.org/>

## 新しい図書館を想像する

・・・図書館からのお知らせ・・・

鎌倉市では、

深沢に計画している新庁舎に深沢図書館を、市役所所在地に中央図書館の整備を考えています。

図書館の具体的な機能の検討に入る前に、利用者の皆さんにご意見を伺います。

ご興味あるかた、ぜひご参加ください!!

9月29日(金) 10月8日(日) 10月17日(火)

午後6:30~8:00 午前10:30~12:00 午後1:30~3:00

お申込み・お問合せ：鎌倉市中央図書館 TEL0467-25-2611

## ボランティア連絡協議会報告

9月3日(日)、4年ぶりに福祉まつりが開催されました。来場者は約1800人。売り上げは45万円ほどでした。いずれも4年前の前回よりは少な目です。猛暑の影響か、周知が行き届かなかったのか理由はわかりません。それでも皆、久しぶりのお祭りを楽しむことができました。

ボラ協は市民寄付物品バザーを準備段階から担当したほか、登録各グループが当日の福祉体験や司会、手話通訳、屋外での舞台発表などで活躍しました。駐車場での各地区社協による模擬店も大盛況で、早々に売り切れとなったようです。

暑さ対策や売り場の配置など、反省材料はいくつもあります。大きなトラブルもなく、50名を超える売り場スタッフからも口々に楽しかったという感想が聞かれました。(黒瀬)



## 協働事業推進部会報告

(9月5日(火) NPOセンター鎌倉)

これまで当部会は市と市民団体との協働事業のサポートを担ってきましたが、制度の変更もあり、その役割を見直す時期にきているようです。協働事業は「つながる鎌倉エール事業」と名称も替わり、市提案事業は無くなり、市民団体提案事業のみとなりました。

応募を考える市民団体の相談窓口はNPOセンター事務局が担っています。そこで当部会は「協働」をより広くとらえ、NPO団体同士や地域とのつながり、さらには企業とも結びつける道筋もあるのではないか、という視点も検討していくこととなりました。

なお、来年度の同事業協働コースの公開プレゼンテーションは9月24日に実施され、3事業が提案されました。詳しくは鎌倉市HPをご参照ください。

[鎌倉市/つながる鎌倉エール事業 \(スタートアップコース・協働コース\) \(city.kamakura.kanagawa.jp\)](http://city.kamakura.kanagawa.jp)

(黒瀬)

## TOTOMO活動日誌 (7/27~9/27)

8/1	図書館協議会傍聴	9/3	福祉まつり参加
8/2	間島弟彦・愛子夫妻旌徳の会	9/5	協働事業推進部会出席
8/7	ユニリーフお手伝い	9/6	間島弟彦・愛子夫妻旌徳の会
8/8	鎌倉市本庁舎等整備委員会傍聴	9/7	ユニリーフお手伝い
8/10	おはなしひこうせん夏の遠足	9/10	鎌倉自治研センター定例懇話会に参加
8/10	ボランティア連絡協議会役員会出席	9/21	おはなしひこうせん勉強会
8/17	ボランティア連絡協議会委員会出席	9/22	読書会
8/21	横浜市図書館ビジョン学習会参加	9/22	協働事業推進部会出席
8/23~24	福祉まつり準備のお手伝い		
8/24	ユニリーフ作業会参加		ロビー活動 随時
8/27	『トクイベント 鎌倉の新しい拠点“ふみくらを共に創る”参加		臨時打ち合わせ2回(8/23, 30)
8/30	市長・教育長へ要望書と提言書の提出		定例会4回(9/6, 13, 20, 27)



# TOTOMO COMING NEXT! 事務局からのお知らせ

ようやく過ごしやすい季節となりました。芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋。そしてなんといっても読書の秋!! 秋の夜長には、何を読みましょうか。

## おはなしひこうせん勉強会

日 時：10月19日(木) 10時~12時 場 所：福祉センター  
テーマ：ファンタスティック☆ライブラリーについての話し合いと、各自が決めたテーマに沿った本の紹介などをする予定です。  
お問い合わせは、黒瀬 (TEL/FAX 0467-22-8545) まで。

## 読書会

日 時：11月24日(金) 11時~12時半 場 所：NPOセンター鎌倉  
テーマ本：原田ひ香著『図書館のお夜食』(ポプラ社)、平野獅子著『女ことばってなんなのかしら?』(河出新書)です。皆さまのご参加お待ちしております。  
お問い合わせは、杉崎 (TEL/FAX 0467-41-4956) まで。

## 間島弟彦・間島愛子夫妻 旌徳の会

10月4日(水) フィールドワーク「第2回 間島夫妻ゆかりの地を巡る」を実施します。  
お問い合わせは、鈴木 (TEL 090-4728-5242) まで。

## 松坡文庫研究会 第6回講演会 「山陰游草 松坡、揚鶴大江卓との旅」

日 時：10月7日(土) 14時~16時 場 所：鎌倉市中央図書館3階多目的室  
内容や申込み方法など詳細は、10ページのお知らせをご参照ください。

## TOTOMOのお宝展

日 時：10月21日(土) 時間は未定 場 所：福祉センター 第1・2会議室  
TOTOMOがいただいた作家の方々のイラスト等を大公開!  
午後には、「これからの鎌倉市図書館、学校図書館を語る会」も開催します。  
申込み不要、参加無料。企画が決まり次第TOTOMOのHPで詳細をお知らせします。

## 図書館見学会

多摩市立中央図書館 日 時：11月15日(水) 10時~12時  
ゆいの森あらかわ 日 時：12月 4日(月) 14時~15時半  
いずれも、定員12名(先着順)参加希望者は、事務局までお問い合わせください。

## ☆図書館友の会全国連絡会

11月16~17日、岩手県で全国図書館大会が開かれます。図友連が主催する第15分科会「市民と図書館~住民が取り組む図書館職員問題~」の準備を進めています。

お問い合わせは、阿曾 (TEL/FAX: 0467-45-5731) まで。

## 編集後記 \* \* \* \* \*

☆本当に暑い夏でしたので、冷房をつけっぱなしで提言書の資料作りをしたり、読書会の本を読んだりしていました。これから来る電気代の請求が怖いです。(A.S)

☆秋から冬にかけ、様々な催しが続きます。皆様のご参加をお待ちしています (M.S)



題字・巻末カット：小島寅雄 2023年9月27日発行  
図書館とともだち・鎌倉(代表：水岡やす子) 編集：阿曾・黒瀬・杉崎・斉木  
事務局：〒248-0005 鎌倉市雪ノ下1-14-34(黒瀬) TEL/FAX 0467-22-8545  
HP：<http://totomo.sakura.ne.jp> E-mail: [toshokantomodachi@gmail.com](mailto:toshokantomodachi@gmail.com)

